

FINANCIAL HISTORY

1760–1840 · INDUSTRY · CAPITAL

産業革命

蒸気機関が動力を、工場が組織を、資本が規模を与えた。
経済成長が「定常」から「指数関数的」に変わった転換点。

投資と思考の書齋

<https://anni-memo.github.io/investment-library/>

WHAT HAPPENED

何が起きたか —— 生産力の爆発

18世紀半ばのイギリスで始まった産業革命は、人類の経済史における最大の転換点である。

1760年頃から1840年頃にかけて、一連の技術革新が連鎖的に起こった。

- ジェームズ・ワットの蒸気機関（1769年改良） —— 人力・水力に代わる動力源
- ジェニー紡績機、水力紡績機 —— 繊維産業の生産効率を数十倍に
- 工場制度 —— 職人の手工業から、機械による大量生産へ
- 鉄道の普及 —— 物流と人の移動が劇的に加速

これらの革新はイギリスから始まり、ベルギー、フランス、ドイツ、アメリカへと波及した。世界は、農業社会から工業社会へと不可逆的に移行した。

WHY IT HAPPENED

なぜイギリスで起きたか —— 三つの条件の合流

産業革命がなぜ18世紀のイギリスで起きたのか。歴史家たちは三つの条件の同時成立を指摘する。

- 科学技術の発展 —— ニュートン以来の科学革命が技術革新の土壌を作った
- 石炭エネルギー —— イギリスは豊富な石炭資源を持ち、木炭に代わるエネルギー源を確保できた
- 資本蓄積 ——

大航海時代以降の貿易利益と、イングランド銀行を中心とする金融制度が、大規模投資を可能にした。技術だけでは革命は起きない。資本だけでも起きない。技術と資本とエネルギーが同時に揃ったとき、初めて産業革命という巨大な転換が可能になった。

WHAT CHANGED

何が変わったか —— 経済成長の本質的变化

産業革命がもたらした最大の変化は、経済成長の質そのものが変わったことだ。

産業革命以前、人類の一人あたりGDPはほぼ横ばいだった。農業生産は人口増加に追いつく程度で、生活水準は何世紀もほとんど変わらなかった。

産業革命以降、成長は指数関数的になった。一人あたりの生産力が持続的に向上し、「今日より明日の方が豊かになる」という概念が初めて現実のものとなった。

- 賃金労働者階級の誕生 — 農民が工場労働者になり、都市に人口が集中した
- 資本家と労働者の対立 — 生産手段を持つ者と労働力を売る者の構造的な格差が生まれた
- 都市化と環境問題 — 工業都市の汚染、児童労働、貧困が社会問題となった

豊かさや格差。成長と搾取。産業革命は、資本主義の光と影を同時に生み出した。

WHAT REMAINS

今に残るもの —— 成長と格差の構造

産業革命が生み出した構造は、250年経った現在も私たちの経済の基盤である。

- 持続的成長への期待 — 「経済は成長し続ける」という前提は、産業革命以降に初めて成り立った
- 技術革新と雇用破壊 — ラダイト運動（機械打ちこわし運動）は、AIによる雇用不安の原型
- 格差の構造 —

資本を持つ者と持たざる者の格差は、産業革命から始まりピケティの『21世紀の資本』まで続くテーマ。産業革命は「終わった出来事」ではない。現在進行中のAI革命は「第四次産業革命」とも呼ばれる。歴史は繰り返さないが、韻を踏む。

FOR INVESTORS

投資家にとっての意味 —— 技術革新と資本の力学

産業革命の歴史は、投資家に技術革新と資本の関係を教えてくれる。

- 技術革新の初期は混乱を伴う —
既存産業が破壊され、新産業が勃興する過程では、勝者と敗者が入れ替わる
- インフラに投資した者が勝つ —
鉄道、運河、工場。技術そのものより、それを支えるインフラに投資した資本家が最も富を得た
- 労働者の反発は制度変化を生む —
ラダイト運動、チャーティスト運動。社会の不満が政策を変え、市場環境を変える

AI革命の現在、「何に投資すべきか」を考えると、産業革命の歴史は最良の参照点となる。派手な技術より、静かなインフラ。それが歴史の教訓である。

KEY TERMS

関連用語

投資と思考の書齋

<https://anni-memo.github.io/investment-library/>

投資は自己責任です。このサイトの内容は情報提供を目的とし、投資助言ではありません。